

第3回てだこサンサン杯 第64回那覇地区中学校春季軟式野球大会 競技資料

〈競技に関すること〉

1. 球場・練習会場について

球 場			練 習 会 場
仲西中学校 《会場長》 大浜	開 場	7:00	球場長の確認の下、できるアップをお願いします
	ブルペン	有り	<ul style="list-style-type: none"> ・オーダー交換終了後、前試合チームの許可をもらう ・前試合をしているチーム優先 ・ブルペンが1カ所の場合、交代で使用する
城北中学校 《球場長》 知念	備 考	第1試合 開始時刻 8:30	<ul style="list-style-type: none"> ・練習会場が無い会場は、試合終了後、キャッチボールの時間（10分間）を設ける。 ・試合間隔35分（キャッチボール、シートノック込）
神森中学校 《球場長》 宮良			
金城中学校 《球場長》 伊佐	駐車場等 注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場に限りがありますので、できる限り乗り合わせをお願いします。 ・駐車場は、会場長から出されている場所・台数を厳守すること。 ・駐車車両は許可書が見える場所に置くこと。 ・学校周辺での路駐や商業施設等に駐車しないようにして下さい。 ・コインパーキング等の利用をお願いします。

2. 球場内でのアップ

- (1) 第1試合の球場入りは、試合開始90分前より可とする。遅くともオーダー交換時までに行うこと。
- (2) 第1試合の球場内でのアップにおいて、チーム統一のTシャツを認めるがオーダー交換前には試合用ユニホームを着替えること。
- (3) 芝生保護のため、球場内芝生エリアはスパイクを履いての練習を禁止する。
ただし、学校会場ではその限りではない。
- (4) 打撃練習はバントまたは1対1のペッパーまでとする。
- (5) 外野ノックはグラスラインより内側（土の部分）から行うこと。
ただし、学校会場では外野ファウルグラウンドからのノックは可。
- (6) 第1試合のチームは球場内での練習に登録メンバー以外の部員を入れることができる。
但し試合開始45分前（オーダー交換時）には球場内から引き上げること。またサイドノック時のボールボーイはヘルメットを着用する。
- (7) 投球練習の際の捕手（控え捕手も同様）は、必ず捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。
また、コーチ1名のブルペン捕手を試合開始までの間許可する。（マスクを着用すること）。
- (8) 球場内練習では、競技で使用する以外の道具を使用することを禁止する。
例）シャトル、プラスチックボール、サンドボール、ラダー 等

3. 練習会場でのアップ

- (1) 練習会場の使用は、会場到着後本部席（会場長）に確認をとって練習開始すること。
その際、設備面、安全面に考慮し、大会本部が使用についての制限を設ける場合がある。
- (2) 練習会場では、可能な限り競技で使用する道具のみを使用すること。
- (3) 第2試合目以降のチームは、球場内（フィールド内）のブルペンを使用することはできない。但し、球場によっては使用が可能な場合もあることから会場長に確認をすること。
※ 学校会場ではその限りではないので会場長に確認をすること。
※ ブルペンがフィールド外にある場合は使用を認める場合もある。

4. オーダーの提出・記入・交換

(1) 記入

- ① オーダー用紙は全てフルネームで記入すること。※控え選手もフルネームで記入すること。
- ② オーダー用紙のポジションの記入は数字で記入すること。

(2) 提出

- ① オーダー用紙の提出は、第1試合はオーダー交換の10分前まで、第2試合以降は前試合の3回終了までに本部へ提出すること。
- ② オーダー用紙は**5部**提出すること。

(3) 交換

- ① 第1試合目のオーダー交換は、試合開始時刻の45分前とする。
- ② 第2試合以降のオーダー交換は、前試合の4回終了時に行うこととする。
- ③ オーダー交換後に会場長から会場利用についての説明を両校の保護者代表1名に行い、各保護者へ通知・周知してもい協力を得るようにする。

5. シートノック

- (1) シートノックは、試合開始30分前に後攻側から始める。通告時より5分以内とする
※ 決勝戦は試合開始35分前、7分以内。

- (2) 投内連携時はマウンド付近は使用しない。投手はノックを受けない際はファウルグラウンドで待機する。

- (3) 天候等の事情により省略、短縮、またはサイドノックに変更することもある。

※ サイドノックでは、芝生保護のため球場内芝生エリアはスパイクを履いての練習を禁止する。ただし、学校会場ではその限りではない。

- (4) 相手チームは、完全にベンチ内で待機すること。

- (5) シートノックの捕手は登録選手が防具を着用して行うこと。補助員の捕手は不可。

- (6) シートノック・サイドノックの補助員は全員ヘルメットを着用させること。

- (7) シートノック時の補助員を、登録外生徒（5名以内）で行ってもよしとするが、ユニフォーム、ヘルメットを着用してのボールの受け渡しに限る。※ボールケースは地面に置かないこと。

※ 登録人数が少ない場合、あるいは学校会場の場合、補助員が少ないのでコーチが代わりに補助を行ってもよい。生徒補助員同様、ヘルメットを着用すること。

- (8) 先攻チームは後攻チームのシートノック終了1分前のアナウンスでベンチ前に整列しノックに備える。

6. 用具、装具規定および点検について

- (1) 沖縄県中学校体育連盟軟式野球専門部「用具・装具規定及び運用規定」を遵守すること。

- ① シューズ・スパイクについては、色の混在を認める。但し、高校野球対応のものとする。
※ 中体連主催の九州大会・全国大会では色の混在は認められない。

- ② アームスリーブにおいては、サポーターと同様の扱い(医療目的)とし、使用する場合には、アンダーシャツと同色とし、投手が使用する場合は両袖の長さを揃えるものとする。
※ 使用する際はオーダー交換時に申し出ること。

- ③ リストガードの使用に関する規定について

○ 中体連主催大会(夏季野球選手権大会)においては、リストガードの使用は認められないが手袋とリストガードが一体型のものについては使用可。

● 連盟主催大会においては、リストガードの使用を認める。手袋とリストガードが一体型のものも使用可。

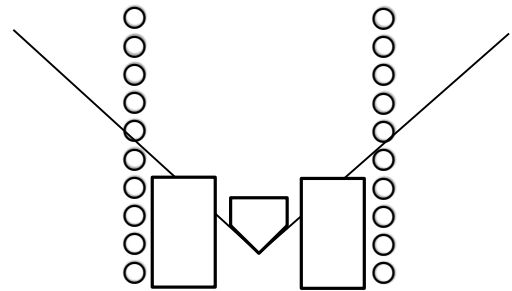
④ サングラスの使用については、使用を認めるがオーダー交換時に申し出ること。ただし、投手のミラーレンズの使用は認めない。

- (2) 各チームとも上記の規定を熟読し、事前に用具点検を確実にすること。
- (3) 用具点検は、試合前シートノック時にベンチ待機チームに対して行います。
- (4) ヘルメットは、規定に則ったもの(JSBB、SGマークあり)を最低限8個以上準備すること。
- (5) 点検の際には、ヘルメット、バット、グラブなど用具をベンチ前に並べ、点検に協力すること。

7. 試合

- (1) 試合開始の挨拶は、球審の号令で両チームがホームベースを挟んで集合し一列に並び、また、試合開始の挨拶を終えた後、攻撃側のチームについては、打者、次打者、コーチャー以外はベンチ内待機とする。

※ 右の図のように整列する
※ 試合終了時の挨拶も同様とする。



- (2) 試合中のアップ（キャッチボール）は2組（4名以内）とする。
※ 攻守交替時に限り、控え選手がファウルグラウンドでの外野方向ヘランニングすることは認める。
※ キャッチボールの際のゴロ捕球は禁止。
- (3) 控え捕手も常に捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用すること。
- (4) 次打者席では、投手が投球に関する動作（サインを見る姿勢）に入ったら速やかにスイングを止め、投球を注視するものとする。
※ 打者、次打者以外の選手が、フィールド内で素振りを行うことは禁止。
- (5) レッグガードとエルボーガードを外すときは速やかにおこなうこと
- (6) ベースコーチ、バットボーイともに、規定のヘルメットを着用すること。
- (7) イニングの攻守交代時にヘルメット、グラブの受け渡しがスムーズに行えるように手配すること。
- (8) 攻撃タイムおよび守備タイムは1分以内で行えるようにすること。
- (9) 4回、7回終了時に、会場補助役員がグラウンド整備を行う。
※ 天候によっては行わない場合もある。
※ 整備終了後の直後に登板する投手に限り、ベンチ前でのキャッチボールは認める。
- (10) 天候および負傷（体調不良も含む）による試合の中断は10分を目安として、出場の可否をチームで判断し、試合を再開できるようにする。

8. 応援

- (1) 攻撃側のチームが優先となる。 ※ 鳴り物に関しては会場長確認が必要
- (2) 試合開始の礼が終わり次第、先攻チームの応援優先となる。
- (3) イニング終わりは、審判の3アウトコールである。その直後からが攻撃側の優先応援となる。
- (4) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止とする。
- (5) 相手チームへの「やじ」や「走った」等の攻撃側のアンフェアな声かけを禁止とする。
- (6) 投手が投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような声を禁止とする。

9、投球制限

投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。

- 大会中の1日の投球数… 100球
- 1週間の投球数… 350球

※ 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。

10、投手の12秒、20秒ルールについて、今大会適用とする。

11、申告故意四球 (6) 5. 05 (b) (1) 【原注】9. 14

定義7

打者が打撃中にボール4個を得るか、守備側チーム監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁（が与えられる）へ進むことが許される。

※申告故意四球の確認事項

- (1) 従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能。
- (2) 打撃中の投球カウント途中においても守備側の監督が申告することが可能。
- (3) 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に一塁を与える。
- (4) 申告による四球は実際に投球されていない場合、その投手の投球数としてカウントはしない。
- (5) 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
- (6) 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で一塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができるようになる。
- (7) リクエストにより敬遠を行った場合、その時点でアピール権が消滅する。
- (8) 申告故意四球の例（「例」最終回の裏0-0の同点。攻撃側は1アウト走者三塁、3番打者Cのケース。）
 - ①守備側チーム監督がタイムを要求。
 - ②審判員はタイムのジェスチャー。
 - ③守備側チーム監督が、審判員に故意四球の意思を伝えた。
 - ④球審は、打者に一塁へ進塁の指示を行う。
 - ⑤打者走者が一塁に到達し、4番打者Dが打席に入り球審は「プレイ」を宣告。
 - ⑥打者Dのボールカウント2B-0S時に、守備側チーム監督はタイムを要求。
 - ⑦守備側チーム監督が、審判員に故意四球の意思を伝えた。
 - ⑧以下省略。

第3回てだこサンサン杯 第64回那覇地区中学校春季軟式野球大会 マナーチェックの実施について

那覇地区中学校体育連盟軟式野球専門部

1. 目的

沖縄県中学校野球選手権大会 大特別規則10(9)に基づき、学校教育の一環として行われる中体連主催の大会には、中学生らしいマナー・服装で参加させることを目的として、本大会においても参加校登録選手を対象に「マナーチェック」を実施する。

※ 今大会は接触を避けるため大会役員によるマナーチェックは行いません。各校でチェックして下さい。

2. 実施方法

(1) 各校引率教師が責任をもって「マナーチェック」を実施する。

(2) 点検項目

項目		チェック基準
1	頭髪	相手校に不快感や威圧感を与えるような ○ 洗髪や脱色 ○ そり込みや刈り込み などをしてないか。
2	爪	競技に危険を及ぼすような ○ 故意に伸ばされた爪 ○ 投手指先へのテーピング など をしていないか。
3	装飾品	競技に支障をきたす（大会取り決め事項に禁止されている）ような ○ 装飾品 （ピアス、ネックレス、ミサンガ、リストバンド、 <u>リストガード</u> 等） を身に着けていないか。 連盟主催の大会は可 ※ チタンプレスレット、ファイテン、ネックレス等の着用は不可
4	ユニホーム	全選手が ○ 同色、同型、同意匠のユニホーム・帽子・アンダーシャツ・ソックス・オーバーストッキングを着用しているか。 ※ オーバーストッキングは長さ（ローカット、ミドルカット等）を統一したものを着用すること。カラーソックスは不可。 ※ <u>シューズ、スパイクの色については、色の混在を認める。但し、高校野球対応のものとする。</u> <u>（注）中体連主催の九州大会・全国大会では色の混在は認められない。</u>

※ 大会2日目以降についても、マナーに関する決まりを守ること

『沖縄県中学校体育中体連軟式野球専門部』より抜粋